

伊万里 市議会だより

IMARI SHIGIKAI NEWS

令和5年6月
No.85



伊万里市議会議員選挙開票風景(松浦町)

※令和5年第2回定例会は、6月12日(月)開会予定です。

- 議員紹介…………… P2～3
- 特別委員会…………… P9～10
- お知らせ…………… P4～5
- 一般質問 …………… P11～15
- 常任委員会…………… P6～8
- 特集：市議選振り返り …… P16

市議会のホームページは「伊万里市議会」で検索、または右のQRコードからご覧ください。



議員紹介

— 私たちの抱負 —

(仮議席順 / ①は期数を示す)



※正副議長や委員会など議会の構成は、5月22日に決まるため、次号でお知らせします。



金原 晋作 ①

(1)子育て世代を応援する市政 (2)高齢者が住み慣れた街で安心して暮らせる政策 (3)市民の方の要望・願いを素早く実行



川添 智徳 ①

市民の皆様の声を大事にして住みたい街、住みやすい街を目指し、未来の伊万里を切り拓いていくよう努めます。



児玉 不二子 ①

女性の視点で、子育て支援、高齢者支援の拡充。皆様の声を市政に届け、安心して暮らせる町づくりを目指します。



松尾 伸人 ①

活き活きとした伊万里の未来を見据え、少しでも、前進が図れる様、努力を重ねたいと思います。



西田 晃一郎 ②

皆様の声に耳を傾け、心によりそいながら福祉の充実を図り、幸せを共感できる地域づくりを目指します。



前田 邦幸 ③

『今、出来る事から！』市民の皆さまと対談しながら、未来の伊万里のためにやるべき事を実行していきます。



中山 光義 ③

地域と農業、観光の発展、議員としての自己研鑽に努め、皆様方の多様なご意見に耳を傾け邁進してまいります。



松尾 真介 ④

未来を担っていく子どもたちの教育を考えることは、私の使命。教育環境の整備、スポーツの振興に力を入れます。



香月 孝夫 ④

「声をカタチに声を未来へ」をスローガンに、「活気あふれる元気な伊万里へ！」を目指し鋭意邁進いたします。



林 博幸 ①

市民の皆さまの声を聴かせていただきながら、伊万里市が住みやすく元気なまちになるよう努力してまいります。



塚本 博幸 ①

生活の中で、困ったな・不安だな・不便だな等、皆様方の生声に耳を傾け現場主義で改善活動を推進して行きます。



力武 英一郎 ①

地域活性化に「聞く力」、「話す力」をもって常に市民の皆さまと共にみんなに優しいみんなの伊万里を目指します。



木寺 智子 ①

少数意見で見えづらい課題にもしっかりと取り組みます。また、市政についてより分かりやすく発信していきます。



山口 常人 ②

皆様方の負託を受け、議員として活動が出来ます。住みたい街伊万里、魅力ある伊万里創り等、活性化に励みます。



加藤 奈津実 ②

市民の皆様の声に基づき、日常の「困った」を「良かった」に変えられるよう提案していきます。お気軽に相談を。



坂本 繁憲 ③

今回の市議選における目標の一つである高等専門学校の誘致に向けて、執行部と連携して取り組んでいく所存です。



力武 勝範 ③

気付き、学び、議論することで議員力を高め、多くの市民との対話を重ね、市民福祉の向上に努めます。



梶山 太 ④

至誠一貫の精神を胸に、初心を忘れず学びを深め、皆様の声に傾聴し、提案を発信して参ります。



井手 勲 ④

いつまでも「あなたを支える身近なサポーター」として、お約束した事の実現のため、しっかりと活動してまいります。



前田 久年 ⑥

人口減少の本格化や高齢化の進行による、少子高齢化・人口減少・過疎化現象への対応に取り組みます。



盛 泰子 ⑨

皆さんからお預かりした問題の解決や課題の発掘はもとより、今期も議員力・議会力アップに全力を尽くします。

第1回定例会 令和5年2月28日（火）～3月22日（水）

上程された議案は、すべて可決、同意および異議ない旨答申しました。

令和5年度一般会計当初予算総額 316億9,600万円

令和5年度における財政状況について、歳入では、財政調整基金やふるさと応援基金に多くを依存せざるを得ない状況となっていますが、市内企業の大規模な設備投資の効果等により自主財源の根幹をなす市税の大幅な増加が見込まれます。

歳出では、扶助費など社会保障に関する経費等の義務的経費が年々増加していることに加え、伊万里中学校や東山代小学校・コミュニティセンター等複合施設の整備、老朽化した道路や橋りょうの大規模な改良や補修などの投資的経費が大幅に増加します。こうした中、新たな子育て支援施策やデジタル技術を積極的に活用した施策など伊万里市に真に必要な事業を強力に推し進めながらも、これまで進めてきた「選択と集中」の考え方を基本とした財政の健全化を両立させた予算が提案され、可決・承認しました。

●デジタル田園都市構想推進事業 136万3千円

国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」と「市まち・ひと・しごと創生総合戦略」をもとに、伊万里市版のデジタル田園都市構想総合戦略（仮称）の策定を行うとともに、総合戦略の実現に必要な施策を実施します。

●農業DX推進事業 30万円

農業分野におけるDXを推進し、スマート農業技術等の普及による生産体制の充実、生産性の向上等を図るため、県、市、伊万里市農業協同組合の3者で「伊万里市農業DX推進協議会」を組織し、市内農家の新たな取り組みを推進します。

●グリーンスローモビリティ実証運行 201万5千円

伊万里の代表的な観光地である大川内山に、新たな魅力を創出するため、環境にやさしい低速の電動車（グリーンスローモビリティ）の実証運行を行います。

令和4年度一般会計予算

2月補正額	4億3,404万4,000円
予算総額	337億9,547万6,000円

ふるさと応援基金への寄附の増加に伴う寄附者への返礼に要する経費、環境センターの管理運営に要する経費、農業用ため池の詳細点検に要する経費、駅ビル管理料の追加、伊万里湾内の浚渫（しゅんせつ）に伴う県営事業負担金の追加、伊万里・有田消防組合運営負担金や消防団格納庫の移転新築への補助金の追加など増額しました。また、各種事業の事業費の確定により見込まれる不用額について減額補正を行いました。

教育委員会委員の任命 酒見 良司 氏（立花町）再任

固定資産評価審査委員会委員の選任 松尾美津子 氏（瀬戸町）
中尾 健児 氏（山代町）
松本 修二 氏（鳥栖市）再任

人権擁護委員候補者の推薦 久保三四郎 氏（二里町）再推薦

お知らせ

常任委員会

特別委員会

特集

一般質問

意見交換会の報告

令和5年2月11日(土)に広報広聴委員会委員7名と手をつなぐ育成会会員10名とで、「障がい者本人及び家族の社会生活の現状と育成会活動について」を議題に意見交換会を行いましたので、ご報告します。

○**手をつなぐ育成会とは…** 一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会は、知的障がいのある人とその家族、そして支援者(専門職、市民等)で作る全国組織で、現在は知的障がいに限らず、発達障がいや身体障がい者の方とその家族等も含み、全国で約10万人の会員が所属しています。

豊かで安心な地域生活を実現するため、親・家族の立場から検討研究し、政府や行政機関等に参加・提言するなどの活動をしています。

○**伊万里市手をつなぐ育成会ではどんな活動をしているの?**

- ・ひまわり園、なかよし学級、特別支援学校、就労支援事業所会員との連携・支援。
- ・伊万里市民図書館内にある福祉喫茶あおぞらの運営。
- ・行政(市・県・国)地域などに対し、子どもたちが自分らしく幸せな生活をするための要望や働きかけ。
- ・ふれあいコンサート、文化祭、手をつなぐカフェ(茶話会)の開催や、アート展の企画・開催など。

◆こんな意見がありました

【学校について】

- ・子どもの人数に対して支援の先生が少ない。
- ・空き教室を利用して、子どもが気軽にクールダウンできる部屋を設置してほしい。

【放課後児童デイ・放課後児童クラブについて】

- ・児童発達支援のできる放課後デイを増やしてほしい。
- ・放課後児童クラブにも知識のある専門の指導員を増やしてほしい。

【療育について】

- ・利用する事業所が少なく、受給日数を使うことができない。
- ・不登校は発達障がいの二次障害ともいわれているので、支援が必要な子の不登校について、相談窓口や家族へのサポートを増やしてほしい。

【相談窓口について】

- ・職員の入れ替わりのスピードが早い。
- ・専門の人材を配置して欲しい。

【生活の自立について】

- ・グループホームを作りたいが、作業所の運営で手がいっぱい。
- ・理想を言えば、親子で利用できるグループホームがあったらいい。

【その他】

- ・発達検査が受けられる場所を作ってほしい。
- ・障がい者の雇用について、一般企業の受け入れ体制の整備、及び前段階での職場体験の受け入れ協力をお願いしたい。



◆まとめ

抱えられている悩みとして、市窓口の担当者の人事異動サイクルが早いことにより、対応が変わってしまうことや、一から説明し直さなければならないこと等の相談者の負担や不安感がありました。

今回の意見交換会で頂いた意見については、所管事務調査として各常任委員会において調査・提言することが望ましいと考え、令和5年第1回定例会の委員会において一部質疑をしました。

消防団員の年額報酬 副団長以下増額

近年、全国各地で地震や風水害などの自然災害が頻発している状況において、消防団の役割が拡大している一方で、消防団員の減少が全国的な課題となっています。このため、総務省消防庁から消防団員の報酬等をはじめとした団員の適切な処遇のあり方等について「消防団員の処遇等に関する検討会」において検討された結果をもとに、消防団員の報酬等の見直しを各市町村において検討するよう通知があり、伊万里市においても消防団員の減少は大きな課題であることから、消防団員の処遇・環境等の改善を図るため、年額報酬が改訂されます。

団 長	90,200円	→	据え置き
副 団 長	59,800円	→	69,000円
分 団 長	44,700円	→	50,500円
副分団長	26,200円	→	45,500円
部 長	18,600円	→	37,000円
班 長	12,300円	→	37,000円
団 員	11,600円	→	36,500円

○出勤報償金 改正

[令和5年度～]

- 災害時・1時間当たり 1,000円
 - ・上限 8,000円
- その他・2時間まで 1,000円
 - ・2時間を超えたら 1時間当たり500円を加算

[～令和4年度まで]

- 災害時・1回当たり 2,000円
- その他・1回当たり 1,000円

質疑

団長の報酬が据え置きなのはなぜか。

回答

現行の報酬は90,200円となっている。それに対し国が示した基準額が82,500円で現行を下回っていたため、据え置きとした。

質疑

出勤報償金が1回当たりから1時間当たりに変更される。出勤された団員一人一人の時間の把握が難しいと思うが、どのようにするのか。

回答

分団幹部に出勤団員の時間管理をしてもらう。

高等教育機関の誘致に向け

今年度は、高等教育機関の誘致のため、全国の大学などを取り巻く環境や昨今の立地動向についての調査・整理を行い、また、高等教育機関の立場から見た伊万里市の特性や強み、課題などを第三者の視点で洗い出し、伊万里市への立地の意向や条件などを問うアンケート調査などの業務を委託します。

調査業務委託料：648万7千円

質疑

今回の調査は、県立大学の誘致だけを目的に行うのか、それとも並行して他の高等教育機関の誘致も考えて行うのか。

回答

県立大学の誘致だけでなく、他の大学等の誘致も視野に入れ、調査等を進めていく。

消防団施設整備 格納庫新築に補助

南波多町大曲に所在していた南波多分団第5部の積載車格納庫が、国道の拡幅に伴い、南波多町水留区に新築されるための経費に対し補助します。

消防施設整備事業補助金の交付要綱において、補助金の限度額は100万円とされていますが、部の再編・統合による格納庫の新築・増築に係る補助金については増額できると定められています。南波多分団第5部は過去に部の再編・統合されており、該当することから、補助金の限度額を増額し150万円を補助します。

質疑

平成22年7月から、部の再編・統合による格納庫の新築・増築に係る補助金の限度額を増額できると交付要綱が改正されていますが、南波多分団第5部は平成20年に部の再編・統合されており、改正以前の部の再編・統合にも対応できるのか。

回答

格納庫は地区の所有であるため、地区の事情で新築・増築の積み立てなど長い年数がかかるケースも考えられるので、期限を設けておらず改正以前の再編・統合にも対応し、増額支給している。

子どもの医療費助成 拡大 未就学児医療費、実質無料化へ

0～18歳の医療費助成を拡充するための費用として1億8,764万9千円。そのうち新たに就学前児童に対する入院費と通院(外来)費の自己負担分を市が助成し、医療費を実質無料化します。これは県内10市では初めてのことです。ただし、システム改修に時間を要し、当面は市役所での手続きが必要となるため、保護者等への説明を分かりやすく丁寧に行うよう、要請しました。

また新たに高校生等の入院が助成対象となります。



予算額

子どもの医療費助成：1億8,764万9千円
(就学前児童分のみ県1/2 補助)

そのうち

- ・未就学児自己負担助成分
1,972万7千円(市費100%)
- ・高校生等助成分
189万3千円(市費100%)

★以前から県内市長会及び伊万里市議会は、佐賀県・佐賀県議会に対して小学生以上の医療費への県費補助を求めています。

予算額：29万7千円(国2/3、市1/3)

学校給食費の負担軽減をします

物価高騰のため、令和5年度から給食費の値上げが予定されていましたが、急激な負担増を軽減するため値上げ分の半額を補助します。

- ・小学校、義務教育学校(前期課程)
4,100円→4,500円
値上げ分400円のうち200円補助
- ・中学校、義務教育学校(後期課程)
4,800円→5,300円
値上げ分500円のうち250円補助

予算額：1,093万4千円

学校給食センターを改修します

施設・設備の老朽化により、改修工事を行うとともに、維持管理業務を委託します。

※改修全体事業費(令和5年度～20年度)
18億4,123万5千円

予算額

- ・施設改修費 9,780万6千円
- ・維持管理業務 2,566万3千円



散弾銃射撃場の 鉛汚染対策を行います

専門家からなる検討委員会での協議を経て、高濃度の汚染土壌を撤去・処分します。

予算額：1億1,590万7千円(市費100%)

ヤングケアラー実態調査

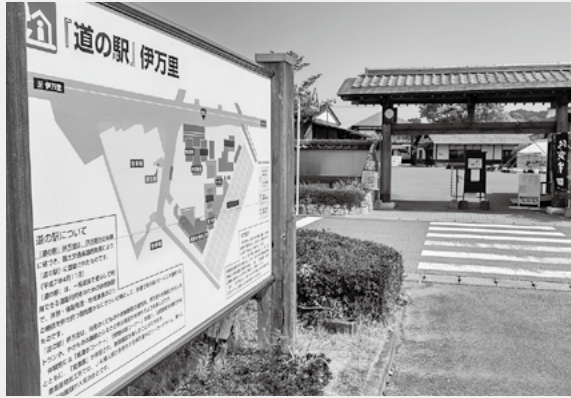
大人が担うと想定される家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども(ヤングケアラー)についての周知、実態調査を行います。

リニューアルに向けて

【道の駅伊万里再生支援事業】

予算額：233万5千円

道の駅伊万里「伊万里ふるさと村」の再生に向け、施設を取り巻く現状を把握・分析し、具体的な再生案の検討などに取り組む伊万里市農業協同組合に対し、補助金が交付(補助率1/2以内)されます。



意見

道の駅伊万里再生事業については、再生に向けて積極的に関わるよう求めました。

自慢のブランド牛を守る

【伊万里牛産地強化支援事業】

予算額：2,011万3千円

肉用牛の肥育農家や飼養頭数が減少し、ブランド牛としての産地維持が危惧される中で、ふるさと納税の返礼品として主力である伊万里牛の生産強化を図るため、肥育農家の経営規模の拡大や一貫経営への移行、スマート畜産等の取組に要する経費が補助されます。



意見

伊万里牛産地強化支援事業については、今日の厳しい経営状況を踏まえ、より一層の支援に努めるよう求めました。

農業の未来の設計図

【地域計画策定事業】

予算額：98万円

少子高齢・人口減少が現実となり、農業従事者の更なる減少や遊休農地の拡大が懸念される中、将来の農地利用の姿を明確化するため、令和4(2022)年5月の農業経営基盤強化促進法等の法改正により「人・農地プラン」が法定化され、令和5(2023)年4月からは名称を「地域計画」と改められました。

これまでの「人・農地プラン」では、地域農業の将来の在り方を見出しましたが、これに 目標地図の作成を加えることで、地域計画の見える化が図られます。

伊万里の魅力は無量大

【シティプロモーション推進事業】

予算額：2,206万7千円

本市を広くPRするため、人流データ等の把握や現状分析のほか、地域ブランド向上のためのアドバイザー等と連携した地域資源の発掘や、新たな魅力の創出及びローカル情報の発信を行いながら、福岡都市圏等に向けた戦力的なプロモーション活動が行われます。



地域・生活支援調査特別委員会

これまで本委員会では各町のコミュニティバス、デマンドタクシーなどの現状の聞き取り調査を行いました。

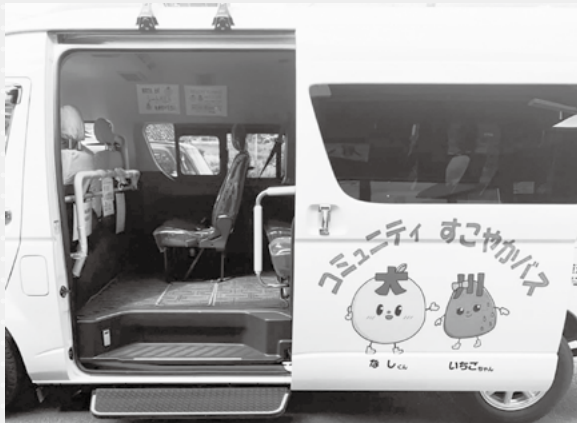
今後の課題としては利用者の利便性を確保するとともに、地域の特性に合わせた運行形態の拡充を図る必要があるため、移動、買い物支援の手段としての地域交通について委員間で協議を行いました。

1. いまりんバスについて

伊万里駅を中心に市街地線、郊外線と山代地区を運行する地域線があります。市街地の循環バス路線については利用者も多く、買い物や病院への受診など利便性が良い反面、郊外の山代地区などは運行回数が少なく、利用者が少ないのが現状です。今後は更なる利便性の向上を目指し、利用者の意見を聞きながら、利用者側に立った検討策が望まれます。

2. コミュニティバスについて

波多津町、黒川町、大川町と地域住民に移動サービスを提供していますが、ほとんどの地区がまちづくり運営協議会が運営し、黒川町は運行を地元業者に委託しています。



3. デマンドタクシーについて

松浦町、二里町が導入していますが、利用者は固定化しています。乗降場所が決まっており、基本的に松浦町では桃川駅までの利用でJRや武雄線のバスの乗車時間と合わせて運行。二里町では路線バスの廃止に伴い、乗り合い型タクシーとして利用していますが、移動範囲が限定されているため、利用者は減り続けているのが現状です。両地区とも一人当りの経費は他の地区と比べると約5倍程度と高額になっています。

これらは鉄道や路線バスといった公共交通の存続のための手法でもあり、今後は利便性を高めて利用者の増加を図る必要があります。他の方法も検討する必要があります。

4. べんりカーやましろ号について

市の介護予防・日常生活支援総合事業地域支え合い事業を活用し、ドア・ツー・ドアの利用が可能。高齢者にとって利便性が高く、最適な移動手段であり、市民が利用しやすい買い物支援のサービスだと思われます。しかしながら運転手が無償ボランティアであり、今後運転手の確保が懸念されるため、継続的な運行ができるよう協議が必要と考えます。

委員会としてはこれから高齢化が進み、免許返納者も増えることが予想されるため、地域交通のサービスは不可欠であり、利用者の使い勝手の良いサービスを提供することが必要です。今後利用者の意見を聞きながらより良い移動手段、買い物支援などを構築するための協議、検討をする必要があると考えます。

(委員長)松永 孝三 / (副委員長)井手 勲 / 川田 耕一 / 山口 常人 / 馬場 繁 / 松尾 雅宏 / 笠原 義久

DX推進調査特別委員会

令和4年第2回定例会において設置されました、特別委員会の調査の結果について最終報告をいたしました。

本委員会は、今後幅広く推進される国のDX（デジタルトランスフォーメーション）の現状を把握し、市民サービスの充実にどのように活用できるかその可能性について調査を行いました。

委員会としては初めに、DXの知識を深めるべく、本市の現状について「伊万里市DX推進ビジョン」「伊万里市デジタルトランスフォーメーション推進計画」の説明を執行部から受け、今後の調査の道筋を確認いたしました。

委員会では

特別委員会では、まずは知ることから始めることとし、DXの先進的な取組が行われている宮崎県都城市、DXを業務改革と一体的に計画し推進している熊本県熊本市、先進的な★RPAの取組が行われている熊本県荒尾市の視察を行いました。

また、伊万里市のDXに関する取組も調査を行い、行政のオンライン申請の拡大、公開型GISの構築が図られているほか、大川町における電子回覧板の実証実験の取組等についての説明を受けました。なかでも市民課交付窓口のキャッシュレス決済の取組においては、その実体験を行い伊万里市のDXの進捗状況を確認いたしました。

調査を進める中で、DXについては国においても重要な推進事業であることから、伊万里市の現在の取組状況を確認すべく令和5年2月3日に執行部から説明を受け、意見交換を行いました。

ここでは、「伊万里市DX推進ビジョン」の一部について変更が生じたことを、新旧表をもってその旨が示されました。変更点として当初は「3分野（産業・行政・地域）」に分けられていた区分について、総合計画との整合性を図るため、「4分野（産業・行政・地域・教育）」に修正されました。

伊万里市においては

令和5年3月1日から「住民票のコンビニ交付」が開始され、更なる住民サービスの向上が見込まれております。

マイナンバーカードは、今後更に重要なツ

ルになってくると考えられる中、申請率は執行部の様々な取組で大きく増加しています。

しかしながら、住民サービスの更なる向上のためには、デジタルデバイド対策など住民への充実を図っていくことが必要になってきます。また、今後もDX推進については、国を挙げての取組であることから補助金など、今後の動向に注視していく必要があります。

むすびに

DX推進調査特別委員会では、着実に進んでいる伊万里市のDXの状況を調査し確認しました。DXの可能性については、地域状況も踏まえ、各分野における各種事業の効果的な推進に取り組めるよう議会との連携を強化し、市民サービスの充実に関わりつくることを目指すべきです。社会情勢の変化に即時対応するためにも、DXに特化した専門部署の職員の増員等を検討し、なお一層の推進を図る必要があると提言しました。



(委員長)前田 邦幸 / (副委員長)香月 孝夫 / 中山 光義 / 前田 敏彦 / 松尾 真介 / 前田 久年

一般質問 (質問順)

議員名	質問事項
梶山 太	1.公共工事における入札と契約について (1)建設業協会の現状協会員数の推移 (2)一般会計における普通建設工事費の推移 (3)市内建設業の現状 2.障がい者の支援について (1)成年後見制度の概要 (2)成年後見制度の現状と詳細 (3)家族信託の概要
山口 恭寿	1.中小企業展示会出展支援について 2.重度心身障がい者医療費助成制度を現物給付について 3.側溝の整備について 4.国見台の整備について (1)街灯の整備状況 (2)陸上競技場の更衣室の状況 (3)プール廃止について 5.小中学校の危機管理について 6.都市計画道路 大坪小学校線について
力武 勝範	1.伊万里牛ブランドの産地維持について (1)伊万里牛の定義 (2)これまでの産地強化支援対策 (3)飼料高騰対策 (4)関係機関との協議 (5)持続可能な畜産経営とするための市の対応
加藤奈津実	1.伊万里市の歌について (1)統廃合した学校の校歌の現状 (2)伊万里讃歌について (3)市長の考え 2.少子化対策について (1)伊万里市の少子化の現状 (2)令和5年度市政方針について (3)市長の考え



◆市議会ホームページから一般質問の動画が視聴できます。
 「伊万里市議会」で検索。または、表紙の二次元コードからご覧ください。

議員名	質問事項
山口 常人	1.主権者教育について (1)投票の推移について (2)学校で議会を学ぶ機会を 2.ふるさと納税について (1)仕組みと役割について (2)市を選んでの、高額納税のポイントは (3)市長の思い 3.観光政策について (1)現状の取組について (2)竹の古場公園周辺の道路の環境整備について 4.東山代小学校、東山代コミュニティセンター施設について (1)計画からの経緯 (2)実施設計の内容について (3)市長の思い
盛 泰子	1.学びの環境の保障について (1)「不登校」児童・生徒への対応 (2)オンラインの活用 2.交通弱者への対応について (1)買い物支援 (2)いまりんバスの、市民図書館への経由 3.原子力災害時における住民の広域避難に関する覚書について
前田 邦幸	1.学校の社会体育について (1)学校現場の現状について (2)小学校の状況について (3)学校施設の使用について 2.伊万里ハーフマラソン2023について (1)伊万里ハーフマラソンの総括について (2)交通渋滞について (3)10回大会について
香月 孝夫	1.SAGA2024国スポ・全障スポについて (1)市内開催競技及び開催場所 (2)大会準備進捗状況 (3)リハーサル大会開催 (4)PR・おもてなしの方法 2.国道204号黒塩交差点について (1)臨港道路七ツ島線開通による効果 (2)渋滞緩和策 3.城山公園の整備について (1)整備状況 (2)景観整備

お知らせ

常任委員会

特別委員会

特集

一般質問



公共工事における 入札と受注業者の現状

梶山 太

質問 建設業協会の平成以降の協会員数の推移について。

答弁 総務部長

伊万里建設業協会の平成以降の推移は、平成9年度に41社で最大、平成29年で最少の20社となっている。

質問 近年、入札不調件数が増加しているが、どのように分析されているのか。

答弁 総務部長

建設工事に携わる人材不足が大きな要因と考えている。現場代理人の工事箇所の兼務を可能とするなど対策は講じている。しかしながら、工事受注に必要な体制の確保が困難になっている状況である。

質問 公共工事品質確保法への対応について。

答弁 建設農林水産部長

適正な工期の設定、施工時期の平準化等、公共工事の品質確保が図れるよう対応している。また、働き方改革を促進し、処遇改善等を行うことで、公共工事に携わる人材を確保できると考える。

成年後見制度と家族信託の概要

質問 成年後見制度の概要は。

答弁 健康福祉部長

原則18歳以上で、障害によって判断力が欠けている、または十分でない方を法的に保護し、支援する仕組みである。

質問 法定後見における後見・保佐・補助の違いとは。

答弁 健康福祉部長

後見は、常に判断能力が欠けている方を、保佐は判断能力が不十分な状態の方を、補助は判断能力が比較的軽い方を対象としている。

質問 家族信託とは、成年後見制度の概要は。どのようなものか。

答弁 健康福祉部長

家族信託とは、自分の財産を信頼できる家族等に託し、あらかじめ本人が定めた信託目的に従って、財産の管理や活用を行うための制度で、財産を柔軟に活用できるという特徴がある。任意後見と家族信託の大きな違いは、身上監護と資産の活用についての2点がある。



国見台プール廃止？

山口 恭寿

質問 陸上競技場メインスタンドに電灯を。

答弁 教育部長

早急に設置する。

質問 陸上競技場の更衣室のシャワーをお湯が出るように整備する必要があるのではないか。

答弁 教育部長

近隣市の陸上競技場でお湯が出るシャワーを設置している所は少ない。現在設置予定はない。

質問 国見台プールの更衣室・トイレ等の解体設計料が今議会にあがっている。危険な状態という事で解体に反対はしないが、プールの廃止には反対。陸上競技、体育館利用者なども利用できる更衣室をプール横に作れないか。

答弁 教育部長

プールの更衣室だけでなく、金網や滑り台なども危険。今後、プール施設全体の解体を予定している。

質問 市民の多くは子どもの遊びを求めている。そのような中で国見台プールの廃止はするべきではない。

答弁 市長

廃止ではない。安全面から施設の除去を行い、国スポのため駐車場にする。その後市民の意見を参考にプールや水遊び場などを検討する。

質問 プールを作る事を約束出来るか。

答弁 市長

約束は出来ない。検討次第である。

小中学校の危機管理について

質問 小中学校の不審者の侵入対策は。

答弁 教育長

学校ごとに危機管理マニュアルを作成。

質問 日常的に門扉を開けている所と閉めている所があるが。

答弁 教育長

地域の方との関係もあり、学校ごとの判断。

質問 大坪小学校の校内は生活道路になっている。稀にバイクで通過しようとした人もいたと聞くが。

答弁 教育長

バイクは行き過ぎだが、地域の中で話し合っしてほしい。



伊万里牛ブランドの 産地維持について

力武 勝範

質問 伊万里牛をブランド牛として維持していくにはある程度の飼養頭数が必要である。現在飼養頭数維持のために、どのような支援が行われているか。

答弁 建設農林水産部長

現在、伊万里牛産地強化事業として、素牛の生産コスト削減や安定した生産を目的とした一貫経営への支援策として、JAの肉用牛サポートセンターへの経費の一部を支援、また空き牛舎の賃貸料及び改修費支援や、5頭以上増頭された場合に1頭当たり5万円の補助金を交付している。令和4年度からは、自己所有の牛舎改修費支援や伊万里産素牛導入費支援を実施し、産地強化事業以外にも死亡獣畜処理に対する支援、繁殖雌牛増頭支援など産地維持・強化に向けた事業を行っている。

質問 近年の様々な国際情勢で、飼料価格が高騰し、その対応策として令和4年度に地方創生臨時交付金を活用し、肥育牛農家配合飼料高騰対策支援事業として1頭当たり7,500円の支援が行われた。令和5年度の当初予算編成時ではどのような検討がなされたのか。

答弁 建設農林水産部長

令和4年度に実施した肥育牛農家配合飼料高騰対策支援事業については検討していないが、令和4年度第3四半期に新たに実施された国の配合飼料価格高騰緊急特別対策が令和5年度も実施される見込みであり、国の動向を注視していく。

質問 伊万里牛はふるさと納税では貢献度が高く、財政面でも伊万里牛というブランド牛は必要である。今後伊万里牛の産地維持に対し市としてどのように取り組んでいくのか。

答弁 市長

令和4年度は、畜産業関連事業に1億2千300万円の予算を付け支援している。伊万里牛はふるさと納税の原資でもあり、畜産担当部署以外の部署に対しても出来る事はやりなさいと指示している。限られた予算の中ではあるが、畜産農家が経営をやめないでいいような支援策は必要である。これからも様々な関係機関と協力して、伊万里牛を支えていかなければならない。



伊万里市民みんなで 歌える歌を

加藤 奈津実

質問 統廃合された南波多小・中学校及び滝野小中学校の校歌はどのように取り扱われているか。

答弁 教育長

南波多郷学館では、南波多中学校の校歌の歌詞を一部変更し歌っている。南波多小学校と滝野小中学校の校歌は石碑に刻み設置されている。

質問 統合先の学校で突然知らない校歌を覚えなければいけない状況の中、一つでも同じ歌が歌えることは子どもたちの心の救いになると考える。朝の会、給食の時間など、折に触れて伊万里讃歌を学校で取り入れては。

答弁 教育長

伊万里の歌を歌うことは郷土愛を育むことに繋がることと認識している。伊万里讃歌であるかは検討をしていくし、学校で取り扱う場合はその意義等もしっかり検討しながら使うことになるかと思う。

質問 子どもたちの孤独感を生まないためにも、子どもに限らず伊万里市民全体で同じ歌が歌えたらと思う。前回市長は「伊万里の市歌にするかは市民のみなさんと意見を交わしながら考えていきたい」と答弁している。市の歌が大事という気持ちや空気感を醸成するのは市長の役目だと思う。

伊万里讃歌の良さは誰でも口ずさみやすい点にあり、市外県外に転出した後も、歌を思い出すことで故郷に戻りたい気持ちにも繋がる。そういったことを踏まえて、市長の考えは。

答弁 市長

伊万里讃歌は伊万里学を21世紀に残していくために作られたのだらうと思う。いくつも伊万里の歌があるので一つに絞る必要はない。

少子化対策について

質問 本市における出生数の推移は。

答弁 健康福祉部長

平成30年は630人。平成13年は590人。平成23年は570人。令和3年は375人。

質問 少子化対策への市長の思いと、深浦市政二期目の方針は。

答弁 市長

子どもの医療費助成拡充、体験の場の充実、公園の整備など、伊万里市としてできることは国を待たずして全庁体制で行っていきたい。



主権者教育について

山口 常人

質問 若年層が議会等に触れる機会を作る事で、将来の方向性の一助となると考えられる。そこで、小学生、中学生に又、高校生に議会の体験をさせることも主権者教育を深めると思うが、考えをお聞きたい。

答弁 教育長

学校においても様々な方法で主権者教育について取り組んでいるところです。また、議会の体験については、機会があれば協力させていただきたいと考えています。

ふるさと納税について

質問 故郷を想う多くの方々の思いをどう活かすのか、仕組みと役割について聞きたい。

答弁 総合政策部長

ふるさと納税は、自分が生まれ育ったふるさとや応援したい自治体を自分の意思で選んで寄付ができる制度であります。

質問 伊万里市を選んでいただいている事に対する市長の思いは。

答弁 市長

毎年度、順調に増加しています伊万里市のふるさと納税については、全国にいらっしゃる「伊万里ファン」の皆様から伊万里市のまちづくりを応援したいという思いが、寄付金という形で表れたものと考えております。

東山代小学校・東山代コミュニティセンターの複合施設について

質問 実施設計の概要等について伺いたい。

答弁 建設農林水産部長

この施設の特徴として1点目に児童や施設利用者が使いやすく安全・安心な施設・2点目に多世代が集い地域交流活動の拠点となる施設・3点目が地域の防災拠点となる施設として計画し、令和5年度より工事に着手し、令和8年2月に全体事業の完成を目指しています。



「不登校」児童生徒への学習環境の保障

盛 泰子

質問 「不」登校と否定的な表現をするのは違和感がある。その現状と、タブレットを活用したオンライン授業の可能性は。

答弁 教育長

30日以上欠席者は小学校49人、中学校87人で前年度より27人増えている。

生涯学習センター内にある教育支援センター「せいら」には約20人が在籍している。

以前はタブレットの持ち帰りを認めていなかったが、現在では保護者の同意のもと可能となり、不登校児童生徒に向けたオンライン授業を一部の学校で実証的に実施。個別最適化した学びのために、今後は課題を共有して対応策を検討していく。

いまりんバスの図書館への経由

質問 いまりんバスは伊万里駅から公共施設などを結ぶが、市民図書館には経由しておらず、希望する声は多い。これまでの検討状況は。

答弁 市民交流部長

課題が4点ある。①図書館に乗り入れた場合、バスの転回を可能とするためには現状でも不足しがちな駐車場を減らす必要がある。②経由したバスが県道に戻る際、信号が押しボタン式で右折がしにくい。③経由することで定着しているタイヤが変更になる。④県道を昭和バス唐津線が運行しているため、乗り入れには「市民と考える地域交通会議」での承認が必要。転回場所と信号の問題が解消されれば、運行経路やタイヤの改正を行う際に検討していきたい。

原子力災害時の避難

質問 県議会だより（令和4年11月議会号）によれば、原子力災害時への備えに対する県の考え方には課題が多いと思う。伊万里市民の避難先自治体には、住民に対して訓練時だけではなく日常的な周知等を求めるべきだ。

答弁 市長

機会があるごとに話をしていく。共に課題を解決しようとする姿勢が大事で、市町連携や首長連携をやっていききたい。



学校の社会体育について

前田 邦幸

質問 部活動の地域移行が話題になっているが、子どもたちが関わる社会体育について。

答弁 教育部長

主として、地域社会で行なう体育活動で、学校の枠を超えたチーム編制が可能になり、異年齢の子どもや多世代の大人との交流などにおいて、親しむ事が出来る。

また、質の高い継続した指導者が期待でき、地域の指導者を積極的に活用できる利点がある。

質問 指導者の事情で5時過ぎでの施設使用になるが子どもたちの待ち時間の待機場所について市の考えは。

答弁 教育部長

多くの指導者は仕事が終わってからの指導となるので、練習が始まるまでの待機場所に苦慮しているチームもある。このため学校の一室で待機を求める意見もあるが、教職員は本来の業務があるため、子どもたちの安全管理の側面からは保護者会での見守りが必要になっている。

質問 グラウンドに照明設備のない学校の使用について。

答弁 教育部長

グラウンドの照明設備については、部活動の地域移行の検討を進める中で、全体的な構想で活動場所として必要であれば、夜間照明なども検討していく。

伊万里ハーフマラソン2023について

質問 交通渋滞の現状について把握しているか。

答弁 教育部長

大会中の交通規制に伴って市街地を中心として交通渋滞が発生しており、コース沿線にお住まいの市民の皆さんには多大なるご不便をかけているのは把握している。しかしながらランナーの安全を確保するなど、一般道路をコースとする大会なので、万全な運営をするには交通規制を設ける必要があり、市民の皆さんのご理解を。

質問 国見台公園をスタート・ゴールに出来ないか。

答弁 教育部長

公認コースの更新が5年ごとなので、次の更新に検討したい。



2024国スポ・全障スポについて

香月 孝夫

質問 本市開催の協議種目と開催場所は。

答弁 教育部長

国民スポーツ大会では、イマリンビーチでオープンウォータースイミングとビーチバレー競技、伊万里実業高校と国見台球技場でホッケー競技、国見台野球場で軟式野球競技、また全国障害者スポーツ大会では、国見台陸上競技場においてフライングディスク競技が開催される。

質問 大会PR計画は。

答弁 教育部長

市広報やホームページをはじめポスターやチラシの作成、各種SNSを活用した情報発信等や、幟や卓上POPを、市役所や各コミュニティーセンター等へ設置する他、旅館組合や飲食業組合等へ店頭設置をお願いし周知の強化を図る。また学校訪問を行い大会への関心を高めていく。

国道204号黒塩交差点について

質問 整備の進め方は。

答弁 建設農林水産部長

用地取得完了区間から順次整備を進める。

質問 渋滞緩和策は。

答弁 農林水産部長

市としても渋滞緩和の必要性は十分に認識している。黒塩交差点を先行しての、左折レーン整備はもとより、国道204号道路改良事業全体の更なる整備促進に向けて、事業主体の佐賀県に対し強く働きかけを行って行く。

城山公園の整備について

質問 剪定や伐採を行う考えは。

答弁 建設農林水産部長

佐賀県の緑の景観づくり事業等の補助事業を活用し、可能な範囲で茂った古木等の剪定や伐採を行う。

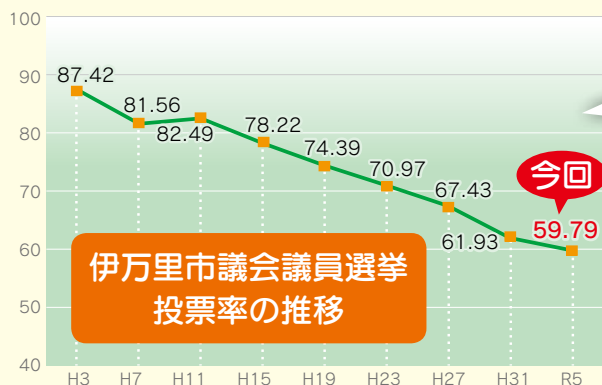
質問 城山公園の今後の整備、活用について。

答弁 市長

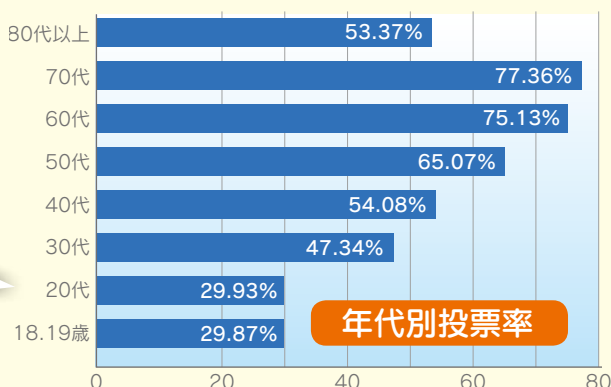
城山の袂にある伊万里保育園が、今後移転することになれば、跡地利活用も併せた形での城山公園の整備を十分に検討する必要がある。

あなたは選挙に行きましたか？

こうして今、議会だよりをご覧になっているあなたは、きっと投票に行かれたことと思います。しかしながら、令和5年4月23日に行われた伊万里市議会議員選挙の投票率は、**59.79%**と**過去最低**でした。平成以降に行われた伊万里市議会議員選挙の投票率を振り返ってみましょう。

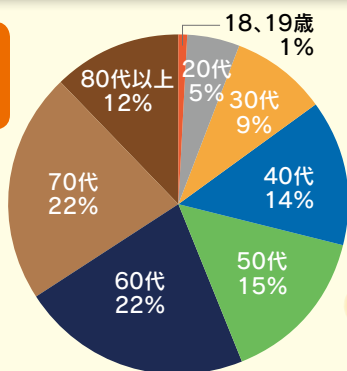


ご覧の通り、投票率は年々下がる傾向にあります。平成27年6月の法改正により、投票できる年齢が18歳から引き下げられましたが、今回の選挙の年代別投票率はこのようになっています。



年代によって人数は大きく異なりますので、これを令和5年4月1日時点の人口に当てはめると、選挙に行った人全体での年代別の割合は、この円グラフのようになります。

年代別投票割合



いかがでしょうか？あなたの年代の声は市政にどのくらい届いているのでしょうか。政治はみなさんの生活と密接に関わっています。みなさんの声を届ける代表者を選ぶのが選挙です。

**あなたの行動で、声かけで、
下がり続ける投票率に
「待った!」をかけてください。**



広報広聴委員会

(委員長) 加藤 奈津実
(副委員長) 西田 晃一郎
盛 泰子 川田 耕一
山口 常人 中山 光義
前田 敏彦

[発行・ご意見]

伊万里市議会
伊万里市立花町1355-1
TEL 0955-23-2594
FAX 0955-22-1277
E-mail: gikai@city.imari.lg.jp

[編集] 広報広聴委員会

[印刷] 山口印刷株式会社

今回の議会だよりは、選挙が行われた関係で、通常の5月発行ではなく6月に発行いたしました。

みなさん、投票には行きましたか？特集ページにも掲載している通り、投票率は年々下降の一途をたどっています。政治は生活と密接に関わっており、市民のみなさんの一番身近な問題を話し合い、決定しているのが市議会です。

今回の選挙では、13名の現職に加え、8名の新人議員が誕生しました。議員は市民の代弁者であり相談役です。日常の困りごとはお気軽に議員にご相談頂き、共にみなさんの生活をより良くしていきたいでしょう。

新たな顔ぶれでスタートした伊万里市議会を、どうぞ宜しくお願いいたします。

(加藤 奈津実)

編集後記